

#11 キリストのパートナーは神の權益のために戦う

(民数記結晶の学び) 2019/5/13-19

I. 1コリントは、旧約のイスラエルの子たちの歴史を、新約の信者たちの予表としています: Iコリント 10:11 さて、

これらの事柄が彼らに起こったのは、一種の予表としてであって、もろもろの時代の終わりに臨んでいる私たちへの警告のために、書き記されたのです。A. パウロは、信者たちがイスラエルの子たちの歴史を繰り返して、神に逆らって邪悪な事柄を行なうことがないようにと警告しました。

B. 神がイスラエルの子たちを召した目標は、彼らが約束の地に入って、その地の豊富を享受し、彼らが神の王国を設立し、地上において神の表現となることでした:

1. しかしながら、すべてのイスラエルは過越を通して贖われ、エジプトの暴虐から救い出され、神の山へともたらされて、神の住まいである幕屋の啓示を受けましたが、彼らの悪行と不信仰のゆえに、ほとんどすべての人は倒れて荒野で死に、この目標に到達することで失敗しました。

2. カレブとヨシュアだけがこの目標に到達して、良き地の中へと入りました。民 14:29-30 あなたがたは必ず死体となってこの荒野に倒れる。あなたがたのうちで数えられた者、…私に向かってつぶやいた者はだれも、あなたがたを住み着かせると私が誓った地に入ることはない。ただエフンネの子カレブとヌンの子ヨシュアは別である。 3. これが表徴している事は、私たちはキリストを通して贖われ、サタンの束縛から救い出され、神のエコノミーの啓示の中へと

もたらされましたが、神の召しの目標に到達することでは失敗するかもしれないということです。神の召しの目標とは、私たちの良き地であるキリストの所有の中へと入り、神の王国のために彼の豊富を享受し、それによって私たちが

今の時代において彼の表現となり、王国時代においてキリストに対する最も満ち満ちた享受にあずかるということです。

4. 荒野でのイスラエルの子たちの失敗を繰り返さないように、これは新約のすべての信者に対する厳粛な警告であるべきです: a. 神のあわれみと恵みがなければ、私たちもイスラエルの子たちと同じになるでしょう。b. 私たちは、イスラエルの歴史を私たちの歴史のようにして読み、民数記 13 章と 14 章に細心の注意を払う必要があります。

II. エジプトから出て来たすべてのイスラエルの子たちのうち、ヨシュアとカレブの二人だけが良き地に入りました:

A. すべての人が贖われましたが、ヨシュアとカレブという二人の勝利者だけが、良き地という賞を受けました。月

B. 民数記 13 章と 14 章の記録によれば、民は不信仰という邪悪な心を持っていました: 1. 不信仰以上に、神に対して罪を得るものはありません。ヘブル 3:12 兄弟たちよ、あなたがたのうちのだれも、不信仰という邪悪な心を持って、生ける神から落ちていくことがないように気をつけなさい。 2. 不信仰が邪悪であるのは、生ける、信実な、全能の神を侮辱するからです。もし私たちが神を信じず、神の働きを信じず、神の道を信じないなら、私たちは神を侮辱しているのです。 3. 私たちの不信仰以上に神を侮辱するものはありません。また、私たちの信仰以上に神を尊ぶものはありません。ヨハネ 14:1 あなたがたは心を騒がせてはならない。神の中へと信じ、また私の中へと信じなさい。 火

C. 民は神を信じず、神の言葉も信じず、さらには神に向かってつぶやいたので、神は激怒の中で誓いました。それは、不信仰の世代はだれ一人として良き地に入らず、ヨシュアとカレブだけが入ることを許されるということです。

D. 十人の斥候の悪い報告と民のつぶやきとによって示されているように、イスラエルの子たちは神を顧慮せず、自分自身だけを顧慮しました: 1. あらゆる事において、また

あらゆる点において、彼らは自分自身のためであり、神の權益のためではありませんでした。2. このゆえに、彼らは神を信じませんでした。そして彼らは神に対して罪を得て、ついには神が彼らを忌み嫌うほどにまでなっていました。

3. 彼らの状況は、神の裁きと刑罰をもたらしました。

E. ヨシュアとカレブは、神の言葉を彼らの信仰としました: 民 13:30 しかし、カレブはモーゼの前で、民を静めて言った、「私たちは今すぐ上って行って、そこを攻め取りましょう。私たちは必ず打ち勝つことができます」。 14:9 ただ、決してエホバに背いてはなりません。その地の人々を恐れてはなりません。彼らは私たちの食物であるからです。彼らの保護は、彼らから取り去られており、エホバが私たちと共におられるのです。彼らを恐れてはなりません」。 1. ヨシュアとカレブは、神の言葉を信じ、主に服従し、目標に向かって突き進みました。水

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. ヨシュアとカレブは神を尊びました。それゆえ、神も彼らを尊びました。 3. 神だけが信仰の源です。もし私たちが信仰を持つとするとするなら、神の權益だけを顧慮して、自分の利益を顧慮しないことを学ばなければなりません。

4. 聖書におけるヨシュアとカレブの模範は、信じるということが何であるかを私たちに見せています: a. 民数記 13 章と 14 章において勝利を得たのは、ヨシュアとカレブではなく、彼らが信頼した方でした。 b. 神があらゆる事を行ないました。彼らはただ、神が行なった事を享受しただけでした。 5. 私たちはヨシュアとカレブの模範に従うべきです。彼らは信仰に満ちた心を持っていました。

III. 私たちは、今日のカレブとなる必要があります。すなわち、真のヨシュアであるキリストのパートナーとなる必要があります:

A. 救いのキャプテンであるキリストは、真のヨシュアであって、私たちを導いて地を所有させます。今日のカレブである私たちは、彼のパートナーであって、彼と共に敵に対して戦い、彼と共に地を取り、所有します: ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。 1. キリストはすでに神によって油塗られており、神の使命を遂行しています。キリストのパートナーである私たちは、彼と共に神の使命を遂行します。 2. ヘブル 3:7 から 14 は、良き地に入ることを扱っています。このように良き地に入ることの予表は、ヨシュアのリーダーシップの下で良き地に入ることでした。そしてカレブは、良き地を所有することにおいて彼のパートナーでした。 3. 今日、キリストは真のヨシュアです。そして私たちは、キリストのカレブ、すなわち、キリストのパートナーです。 4. 私たちはキリストのパートナーとして、彼と共に働き、彼と共に協力して、神の願いを成就し、神ご自身の団体的な表現を持ちます。 B. カレブは別の霊を持っていて、別の霊によって主に完全に従いました。この霊は、他のすべての霊と別のものでした。木

C. 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。ヨシュア 14:8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心を溶かしましたが、私は完全にエホバ・私の神に従いました。 14 それゆえ、ヘブロンはケニズ人エフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。それは、彼が完全にエホバ・イスラエルの神に従ったからである。 1. カレブは完全に主に従いました。なぜなら彼は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入るのを神が願っていることを知っていたからです。

2. 神は彼らに良き地に入ってもらいたかったので、彼らのために戦い、あらゆる事を成し遂げました。3. カレブは、神が彼らのために戦って、敵を滅ぼすことを知っていました。

D. ヨシュアとカレブは、ネピリムやカナン地の住人を恐れず、「彼らは私たちの食物である」と言いました: 1. カレブは、ネピリム(アナク人)が打ち破られて、彼らの食物になることを信じていました。なぜなら、神が彼らをその地へともたらすのを約束していたことを、彼は知っていたからです。2. カレブの経験が明らかにしていることは、私たちがネピリムを食べれば食べるほど、ますます私たちは強くなるということです。彼は八十五歳になっても活力に満ちていました。なぜなら、彼は長年にわたってとても多くのアナク人を吸収したことによって、衰えることのない構成を作り上げたからです。3. 私たちと敵との戦いは、敵にとっては敗北ですが、私たちにとっては食物です。打ち破られた敵は、最もおいしい食物です。4. 敵は私たちの食物となります。敵を飲み込むことは、私たちの満足となります。金

IV. 私たちは神の権益のために戦う今日のカレブですが、私たちにとって極めて重要な事は、良き地によって予表されるすべてを含むキリストのビジョンを見ることと、サタンの大混乱を征服して、神聖なエコノミーの中で勝利を得ることです: ローマ 16:20 今や平安の神が速やかに、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕かれます。私たちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にありますように。

A. 良き地、すなわち、カナン地は、すべてを含むキリストの予表です。このキリストはすべてであり、すべての中におられ、また彼は私たちにとってあらゆるものです:

1. 良き地は、イスラエルの子たちが必要とするすべてのものを供給しました。それは、水、小麦、大麦、ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木、動物、乳、蜜、石、鉄、銅です。2. 良き地は確かに、すべてを含むキリストの予表です。このキリストは、三一の神の具体化であり、私たちの嗣業として私たちに与えられました。

B. 私たちは良き地を所有するために、霊の戦いに従事して、サタンの大混乱を征服し、神聖なエコノミーの中で勝利を得る必要があります: 1. 宇宙の歴史は、神のエコノミーとサタンの大混乱との歴史です: a. サタンは大混乱の源です。神ご自身は神聖なエコノミーです。b. 聖書の中でも、私たちの経験においても、サタンの大混乱は常に神聖なエコノミーと並行します。2. 神は私たちを大混乱から救い出すのではなく、神が願っているのは、私たちが神と一になって、サタンの破壊する大混乱を征服し、神聖な建造するエコノミーを遂行することです。3. 私たちは大混乱に遭遇しているとき、神聖なエコノミーのために立って、神聖なエコノミーを生かし出す必要があります。II テモテ 4:7 私は良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、その信仰を守り通しました。4. 勝利者たちはサタンの大混乱を征服し、神聖なエコノミーの中で勝利を得ます: a. 勝利者たちは大混乱に遭遇しますが、失望したり落胆したりするのではなく、強められて、真理にしたがって神聖なエコノミーのために立って、神聖なエコノミーを生かし出すことができます。b. 私たちが大混乱を征服するのは、すべてに十分な恵みである、手順を経て究極的に完成された三一の神によります。金

Crucial Point ①: 信仰の言葉を聞き、信仰の言葉を語る

OL1: 民は神を信じず、神の言葉も信じず、さらには神に向かってつぶやいたので、神は激怒の中で誓いました。それは、不信仰の世代はだれ一人として良き地に入らず、ヨシュアとカレブだけが入ることを許されるということです。

OL2: 十人の斥候の悪い報告と民のつぶやきとによって示されているように、イスラエルの子たちは神を顧慮せず、

自分自身だけを顧慮しました。OL3: ヨシュアとカレブは、神の言葉を彼らの信仰としました。

私たちの信仰はとても弱く小さく、ほとんどないかもしれませんが、これが私たちの状況であるかもしれないので、私たちは神の御前にへりくだり、自分の信仰の弱さを告白し、赦してくださるよう彼に求めることを学ぶべきです。これが、私たちが神の御前で持つべき霊です。しかしイスラエルの子たちは、言ったことによって示されているように、神を顧慮せず、自分自身だけを顧慮しました。彼らの考慮は神のためでなく、彼ら自身の関心のためでした。彼らは少しも神を顧慮しないで、ただ自分の安全、自分の平和、自分の生存だけを顧慮していました。彼らは自分の弱さを告白したり、神の御前にへりくだったりしませんでした。最終的に、彼らは神に対して罪を得て、ついに神が彼らを忌み嫌うほどにまでなっていました。

彼らが忌み嫌われるようになったのは、あまりにも自分自身のためであったからです。あらゆる事において、またあらゆる点において、彼らは自分自身のためであり、神の権益のためではありませんでした。もし彼らが神の権益について少しでも考えたなら、こう言った(祈った)でしょう、「神よ、あなたは私たちにとってそんなにもすばらしくあったので、私たちはただあなたを愛します。私たちはあなたの定められた御旨のために自分の前途、安全、保証、生存、あらゆることを犠牲にしたいです。私たちは自分の利益を忘れます。私たちは、あなたがご自身の定められた御旨を完成することだけを顧慮します。あなたの定められた御旨のために、前進して地を所有させてください」。

信仰は常に実際に真実です。環境は偽りです。偽りにではなく信仰に聞きなさい。もし私たちの環境が良いなら、信じる必要はありません。私たちは困難な状況にいるときに信じる必要があります。心配、悩み、さらには肉体的な病は、すべて偽りです。信仰は、環境が偽りであって、巨人ではないと常に環境に告げます。環境を呑むことが信仰です。民数記 13 章と 14 章で、ヨシュアとカレブは神の言葉を彼らの信仰としました。…ヨシュアとカレブは神の言葉を信じ、主に服従し、目標に向かって突き進みました。これは確かに、彼らの魂の中でではなく、彼らの霊の中で起こりました。

適用: 青少年/大学生編

ヘブル 11:1 さて信仰とは、望んでいる事柄を具体化することであり、見ていない事柄を確認することです。

6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。というのは、神に進み出る者は、「神はある」ことを信じ、彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、信じるはずだからです。

あなたは主の御名の中へと信じ、バプテスマされ、救われて信者になりました。クリスチャン生活と召会生活において、最も重要なことは信仰を持つことです。信仰は、実は天然の能力ではありません。信仰は神の言葉を聞くことから来ます。したがって、あなたの中に信仰がないからといって、あわててはいけません。あなたの天然の存在に信仰はありません。しかし、神の御言葉を祈り読みし、霊的な書物を読めば読むほど、内側に信仰が出てきます。このため、あなたにとって毎朝の5分から30分の朝毎の復興の時間は、極めて重要です。朝、御言葉を祈り読みせずに、信仰を持たずに学校に行くことを避けなければなりません。ローマ 10:17 ですから、信仰は聞くことから来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。

あなたがいったん神のエコノミーに関する信仰を持てば、あなたは霊を活用してその信仰を保持してください。

例えば、あなたは勉強が伸び悩んでいます。あるいは、クラスのある人たちとの人間関係がうまくいきません。このような時、その状況を見れば見るほど、弱くなります。あなたは良くない環境や状況を信じるのではなく、御言葉を信じてください。ヨハネ 14:1 あなたがたは心を騒がせてはならない。神の中へと信じ、また私の中へと信じなさい。ヘブル 4:2 というのは、彼らに宣べ伝えられたと同じように、私たちにも福音が宣べ伝えられているからです。ところが、その聞いた言は、彼らにとって益となりませんでした。それが聞いた者たちの中で、信仰と混ぜ合わされなかったからです。神の御言葉は、環境が悪いからといって心を騒がせてはならないと言っています。あなたの心が不安でさいなまれそうになるとき、霊を活用し、神の言葉を祈り読みすることから来た信仰を保持してください。民 13:31 ところが、彼と一緒に上って行った者たちは言った、「私たちは、あの民に立ち向かって上って行くことはできません。彼らは私たちより強いからです」。32 そして、彼らは探って来た地について、イスラエルの子たちに悪く報告して言った、「私たちが行って探って来た地は、そこに住む民を食い尽くす地です。私たちがそこで見た民はみな、背の高い者たちです。33 そこで、私たちはネピリムを見ました(アナクの子たちはネピリムの一部である)。私たちは自分がいなごのように見え、彼らの目にもそのようでした」。14:9 ただ、決してエホバに背いてはなりません。その地の人々を恐れてはなりません。彼らは私たちの食物であるからです。彼らの保護は、彼らから取り去られており、エホバが私たちと共におられるのです。彼らを恐れてはなりません。

ローマ 10:10 なぜなら、人は心で信じて義とされ、口で告白して救われるからです。

祈り:「おお主イエスよ、学校生活においてさまざまな苦難や失望させる状況が起こります。しかし、私は環境を信じるのではなく、神の約束の言葉を信じます。12人の斥候のうち10人は環境を信じ、カナンを攻めることに反対しました。しかしヨシュアとカレブは神を信じ、神の言葉を信じました。私を今日のヨシュアとカレブにしてください。霊を活用し、神の約束の言葉を私の霊と混ぜ合わせます。私の口を聖別して、不信仰な言葉を語らず、信仰の言葉を語るようにしてください。自分の必要を忘れ、神のエコノミーを顧みます。信仰によって、困難を突破します。アーメン！」

Crucial Point②:信仰によって、困難(アナク人)を食べる

OL1: 私たちは、私たちの意志において決意し、決心して、主と共に立たなければなりません。それはちょうど、カレブが完全に神に従ったようにです。

OL2: ヨシュアとカレブは、ネピリムやカナンの地の住人を恐れず、「彼らは私たちの食物である」と言いました。

カレブの目から見れば、その地の人々の背丈は大きいのですが、飲み込むことができるのです。彼は神の約束を重んじただけでなく、またすべての困難を軽いものと見なしました。真に信仰のある人は、必ず一面で主の約束を重んじ、もう一面ですべての困難を軽いものと見なします。しかし、これは人が高ぶってもよいということではありません。人はまず神の御前にへりくだり、その後、人ははじめて、主の勝利の上立つことができるようになるのです。

ですから、あなたが毎回、困難に出遭う時、毎回、途方に暮れることに出遭う時、あなたは自分に、「私は今回、飢えるのか、それとも食べるのか？」と問う必要があります。あなたがその事の上で、キリストの力に頼って勝利を得、キリストの勝利の命を現すのでしたら、あなたは一回多く新鮮な養いを得たこととなります。そしてあなたの力はまた一つ増し

加わり、あなたは一回多く食べたこととなります。覚えていてください。一人として食べないで成長できる人はいないので。私たちの食べ物は、神の言葉であるだけでなく、神のみこころを行なうことだけでなく、私たちの食べ物は、アナク人でもあるのです。アナク人とは、私たちの出遭った困難です。多くの人は、神の言葉を食べ、神のみこころを行なうことを彼らの食物としました。しかし多くの人は、アナク人を食べていません。多くの人は、アナク人を食べることはあまりにも少なすぎます。アナク人を多く食べれば食べるほど、あなたはますます強くなるのです。カレブは一つの良い例です。彼がアナク人を食べたので、八十五歳になってもまだとても強かったのです。彼の四十歳の時の力と同じように、八十五歳になった今も力があるのです。カレブの中で多くのアナク人が、衰えることのない構成を作り上げました。霊的な事の上では、みなこのようです。多くの兄弟姉妹の生活の中で、困難はわずかなのに、その生活の中での弱さは少なくないのです。彼らが神の御前に力がないのは、アナク人を食べることに欠けているからです。…サタンが私たちに与えるすべての困難と試みはみな、私たちの食物です。これは、神が私たちを成長させる方法です。信仰のない人は、困難を見れば大変だと言います。しかし、信仰のある人は、これは私の食物であると言って、神に感謝し、賛美します。私たちに置かれた困難で、私たちの食べることのできないものはなく、その困難を食べた後、私たちを成長させないものはないのです。

もし私たちが戦いに従事しないなら、私たちは空腹になるでしょう。日ごとのマナは十分ではありません。私たちは敵を打ち、飲み込まなければなりません。敵は私たちの食物となり、敵を飲み込むことは私たちの満足となります。兄弟姉妹、あなたと私は生ける信仰を持って前進し、戦いに従事し、敵を飲み込まなければなりません。…打ち破られた敵は最高の食物であり、最もおいしい食物です。

適用:青年在職者/大学院生編

不信仰な10名の斥候によれば、イスラエルの民はカナン人にとって食物であると言ひ、信仰を持った2名、ヨシュアとカレブによれば、カナン人こそイスラエルの民の食物でした。同じ状況を見てきたにもかかわらず、全く違った反応が出てきました。一つは不信仰な反応であり、もう一つは信仰から出た反応です。あなたは、ここでクリスチャン生活と召会生活が民主主義による多数決ではないことを見るべきです。民主主義的に言うと、10対2は圧倒的に不信仰派が勝ちます。しかし、私たちの道は信仰の道であり、民主主義の道ではありません。また信仰の反応と、不信仰の反応は正反対であることを認識すべきです。

環境がどんなに困難であっても、その環境が御言葉に反対しているなら、その環境は信仰によって必ず征服されます。例えば、日本の会社では不合理な根性主義や規定が多く存在しています。現在の政府が進める働き方改革により、状況は多少改善されつつあるとは言え、多くの合理的でない慣習が強くはびこっています。この状況は信者の召会生活を妨げています。しかし、あなたは信仰によって日本の会社に存在する文化的障壁を突破できると信じるべきです。なぜなら、私たちの神は死からよみがえる復活の神であり、どのような消極的な環境にも、たとえ死であれ、打ち勝つことができるからです。

祈り:「おお主イエスよ、私は信仰によって、あなたの約束を信じ、困難を軽いものと見なします。私が『できない』と言えませんが、『できる』と言えらるるのです。困難を信仰により突破することで、アナク人を食物として食べます。私を今日のカレブにしてください。主を賛美します。アーメン！」

生命課程 第16課 パンさき集会(2/4)

I. 主を記念する一主を中心とする:

1. 主の晩餐を食べる-②主を享受する:

マタイ26:26 イエスはパンを取り…さき、弟子たちに与えて言われた、「取って食べなさい」。

ルカ22:19 これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念にこれを行ないなさい。

マタイ26:27-28 また杯を取り…彼らに与えて言われた、「みな、それから飲みなさい。これは…私の契約の血である」。

ルカ22:20 あなたがたのために注ぎ出される。

コリント11:24-25 それを飲むたびに、これを行ない、私の記念としなさい。

パンをさくことの中心は主を記念することですが、この記念は、主と主が私たちのために行なってくださったすべての事を、思い起こすだけでなく、それにもまして主と主が私たちのために成し遂げてくださったすべての事を享受することです。主は私たちが彼のパンを食べ、彼の杯を飲むのは、彼を記念することであるとされました。彼のパンと彼の杯とは、彼の体と彼の血とを明らかに示しています。ですから彼のパンを食べ、彼の杯を飲むことは、彼の体を食べ、彼の血を飲むことです。彼の体と血とは、彼が私たちのためにご自身を与え、また彼が私たちのために成し遂げてくださった一切の事の根拠です。さらにまた、食べることと飲むこととは、受けるだけではなく、享受することでもあります。私たちが主の体を食べ、主の血を飲むのは、ただ受けるだけでなく、主ご自身と、主が私たちのために体を与えて血を流し、成し遂げてくださったことすべてを、享受することでもあります。私たちがこのように受け、このように主と主が私たちのために体を与えて血を流し、成し遂げてくださったことの一切を享受することが、すなわち主を記念することです。私たちがこのように主を食べ、飲み、享受することこそ、真に主を記念することです。これが、主の晩餐を食べることの最も深い意義です。

私たちがこのように主の晩餐で主を食べ、飲み、享受することは、私たちの宣言と証しでもあります。私たちの宣言は、私たちが主に結合され、主とミングリングされることが、パンを私たちの体の中に受け入れた後、私たちとミングリングされるのと同じであるということです。私たちの証しは、私たちが主を食べ、飲み、享受することによって、毎日、彼を命として生きることです。私たちが宣言するのは、パンをさいて食べ、主を飲むとき、主が彼の体を与え、彼の血を流すことによって、私たちの中に入って来て、私たちと結合されたことです。私たちが証しするのは、主が私たちのために与えた体と、私たちのために流した血を受けることによって、彼と、彼が私たちのために完成されたすべてにあずかり、彼に結合され、私たちの命また命の供給としての彼によって生きることです。私たちがパンをさくとき、これが私たちの宣言であり、また証しです。

③主の死を展覧する: コリント11:26 あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。

この節の「告げ知らせる」は、表示、展覧の意味を含んでいます。私たちは主のパンを食べ、主の杯を飲むたびにごとに、主を記念し、また同時に主の死を展覧します。私たちは、主の死を記念するのではなく、主ご自身を記念します。しかし主を記念すると同時に、私たちは主の死を展覧して、自分自身に見せ、天使たちや万有にも見

せるのです。私たちが主を記念するとき、パンと杯を分けて食卓の上に陳列します。パンは主の体を指し、杯は主の血を指します。体と血との分離は、死を示しているのです。このようにして死を展覧することになります。私たちはパンをさいて主を記念するとき、このようにして主の死を展覧しているのです。

ここに引用された聖書によれば、私たちはこのようにして、主が来られるまで、主を記念し、彼の死を展覧します。これは、私たちがパンをさいて主を記念し、彼の死を展覧する時、同時に主が来られるのを待つことをも示しています。これは、主が来られるのを待つ霊と雰囲気の中で、主の死を展覧し、パンをさいて彼を記念すべきことを、表明します。

2. 主の食卓に着く: コリント10:16-17 私たちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？ 私たちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？ 一つパンであるからには私たちは数が多くても一つからだなのです。それは、私たちがみなこの一つパンにあずかるからです。

主の晩餐を食べることで、重要なのは主を記念することであり、これは1コリント11:23-25が告げています。主の食卓に着くことで、重要なのは聖徒たちとの交わりであり、これは1コリント10:16-17と21が告げています。

パンさきの集会で、私たちは共にキリストの体を表徴する一つパンを食べ、キリストの血を表徴する一つ杯から飲みます。これには、相互の交わりの意味があります。私たちがこの交わりを持つのは、主の体と主の血のゆえです。ですから、この交わりは、キリストの血の交わりと、キリストの体の交わりとなります。このように共に食べ飲みして、主のパンと主の杯にあずかるのは、「主の食卓にあずかる」ことです。この食卓で、私たちはすべての聖徒と共に主の体と主の血にあずかり、互いに交わりを持ちます。私たちが共にあずかるキリストの血は、聖徒たち間のすべての妨げを取り除きます。私たちが共にあずかる、キリスト個人の体を表徴するパンは、私たちの中に入り込み、私たちを一つパンとします。それは、キリストの団体のからだを表徴します。主の晩餐を食べる面で、パンは、主が私たちのために十字架上で彼個人の体を与えられたことを示します。ところが主の食卓に着く面で、パンは、主が死から復活されることによって、再生されたすべての聖徒を、彼の団体のからだに構成することを示します。前者は具体的であって、私たちのために死に渡され、与えられました。後者は奥義的であって、すべての聖徒によって、主の復活の中で構成されたものです。ですから、私たちがパンをさくたびに、一方では、主が私たちのために十字架上で与えられた体を受けることによって、彼を記念し、彼を享受します。もう一方では、彼が死から復活して生み出された奥義的なからだを享受し、聖徒たちと共に、彼の奥義的からだの中で交わりを持ち、この奥義的からだの一を証しします。これは、私たちと主との関係だけでなく、また私たちと多くの聖徒たちとの関係でもあります。

適用: 青少年(小学校5年から中高生、大学生)、新人編祈り: 「パンさきにおいて主の晩餐を食べ、主が私のために与えた体を食べ、私のために流された血を受けて享受します。主が完成された全てにあずかり、主を私たちの命、命の供給として生きることを宇宙に宣言します。分かれたパンと杯によって主の死を展覧し、あなたの再来を待ち望みます。また主の食卓によってすべての聖徒たちと交わりを持ち、奥義的からだの一を証します。ハレルヤ！」